



『夢に向かって』

東京都
東競武道館
小学4年生

松元雄希

将来、僕は科学者になりたいです。僕がなぜ科学者になりたいかと言うと、科学者は、いろいろな研究をして発明することで人間社会に役立つ事ができるからです。去年は、ノーベル物理学賞に日本から三人の科学者が選ばれました。三人の科学者は、強い心で長い間、研究に打ち込む事で、省エネや環境に役立つ青色LEDという長持ちする電気の源を発明しました。ぼくは、今から、一生懸命勉強して科学者になる夢を実現したいと思います。そして、世界中の人々が幸せに安心して暮らせるような発明をして、役に立ちたいです。そのためには、剣道で、体を鍛え、どんな困難にぶちあたっても負けない心を作ることが必要だと思います。

ぼくは5才の時から剣道を始めました。兄が警察署で剣道を習っていたので、一緒に道場に行き、稽古を見ているうちに「剣道をやってみよう」と思い始めました。最初に剣道の先生から「道場に入ったなら礼儀正しくあいさつし、稽古に集中しなさい」と厳しく言われました。稽古は、すり足の練習から始まり、次に竹刀を持って素振りを教えてもらいました。道場でも、家でも、何百回も素振りの練習をしました。すり足も、足の裏の皮がむけるほど頑張りました。そして、ようやく防具を着けての稽古が始まりました。先輩が、僕の竹刀を受ける元立ちをしてくれました。その時、ぼくは、「剣道は、一人ではできないんだ」という事に初めて気が付きました。「ありがとう」という感謝の気持ちを持って、稽古をしなければいけないと感じました。

初めて試合に出させてもらったのは、小学1年生の秋でした。区大会1、2年生の部に出場しました。試合会場に立つと、緊張で体が震えました。しかし、いつもぼくを応援してくれているお母さんに優勝をプレゼントしたいと思い、強い気持ちを持って、竹刀を振り、前に出る試合をしました。決して後ろに下がる事はありませんでした。その結果、優勝できたのです。その時、初めて勝つ喜びを知りました。その後は、どうしたら勝つ事ができるかを考え、いろいろな工夫と努力を続けて、一生懸命稽古をしました。とても充実した毎日でした。ところが4年生になって、中学校に行くための準備で塾に通う事になり、勉強の時間が増え「剣道と勉強を両立させる事なんてできるわけがない」と弱気になっていきました。毎日、勉強に追われて、やろうと決めていた事ができなくなってしまったからです。だんだん剣道にも勉強にも集中できなくなり、試合に出てもよい結果を出せなくなりました。「もう剣道なんてやめたい」と弱気になり自分に負けていました。ちょうどそのころ、区大会団体戦を目前にして、仲間が心を合わせて勝利をつかもうと、猛稽古が始まりました。みんなの頑張る姿を見て「ぼくも負けてはいられない」と力がわき、稽古にはげみました。そして試合では団体戦での自分の役割を理解して、勇気と責任を感じて、戦う事ができました。チームは、優勝する事ができました。この優勝は、ぼくにとって忘れられない思い出となりました。また、ぼくは大切な事を学びました。それは、剣道は、厳しい稽古を通して強い心と体を鍛える事だと、心から理解できました。ぼくは、弱い自分に負けずに剣道を辞めなくて良かったと思いました。そしてぼくは、これから、どんなに辛い事があっても、ぼくを支えてくれる人達に感謝の気持ちを忘れずに、強い心で剣道を続けていこうと思います。その事は、ぼくの夢「社会に役立つ科学者になる」という、大きな道につながっているのです。